

『事業評価年次報告書2018』を公表 事業の評価と分析をとりまとめた冊子を発行



2017年度の外部評価でAのレーティングが付された「マンムナイ橋梁建設計画」の建設現場。

2019年3月、JICAは17年度の事業評価を年次報告としてとりまとめた『事業評価年次報告書2018』を発行した。JICAの事業評価はDAC評価5項目に基づき、事業の有効性や効率性などを総合的に評価し、終了後も効果が発現しているかどうかを検証するもので、事業改善への活用や、国民・関係者への情報公開を目的としている。

報告書の中心となる第2部では評価結果の事例紹介を行っており、特に課題があることとされた案件については問題点の分析や得られた教訓、今後の対応を伝えている。また第3部では、事業の実施プロセスに着目した分析手法の導入や評価結果の統計分析など、近年のJICAの事業評価における取り組みも紹介しており、1冊を通じてJICAの事業成果や評価制度について包括的に理解できる内容となっている。報告書はJICAのウェブサイトで閲覧することができる。

*DAC評価5項目：経済開発協力機構／開発援助委員会による国際的なODA評価の視点。

ニュース深掘り! 『事業評価年次報告書2018』に寄せて (p.53 事例紹介案件担当者から) 現場の教訓残すプロセスの分析

追体験していただければうれしく思います。

実践的な教訓が導かれています。地域総出の開通式で大団円を迎えたマンムナイ橋の物語。みなさまにもご一読いただき、現場のドラマを

スリランカでマンムナイ橋の建設事業を担当して5年が経ち、その後の状況が気になっていました。マンムナイ橋は内戦終結間もない2011年に建設が始まり、地域の生活向上に加え、すべての民族が使用できる新設の橋という、新しい平和な時代を示す意味が込められていました。今回の事後評価で、橋が当初の想定どおり現地の人々の生活に役立っていることが分かって安心しました。事業の成果は通常、客観的な基準によって検証されます。しかしこのやり方では、人々の喜びや臨機応変に展開した現場の力学を表すまでできません。それに対応するため、今回はプロセスの分析という新たな試みも行われました。関係者へのインタビューを通じて、事業の過程で直面した問題やそれに対する創意工夫、また、どのように地元の人々の信頼を得ていたかなど、当時の出来事を物語として記述し、

JICA
青年海外協力隊
事務局
川本寛之
かわもと・ひろゆき

1997年入構。在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本大使館で戦後復興支援事業などに従事。その後JICAの平和構築支援課題担当や復興支援事業の評価業務を担当し、18年6月から現職。



JICA HEADLINE NEWS

- 4月1日 | ▶ **ラオス税務局の能力向上に技術協力**
納税者サービス改善などの協力を通じ、歳入基盤の安定化に貢献。
- 4月1日 | ▶ **スーダン、コムギ品種の開発に鳥取大学が科学技術協力**
SATREPS討議議事録に署名。収量・生産量の増大で食料自給率の向上を目指す。
- 3月27日 | ▶ **中南米・カリブ地域の再エネファンドに3千万ドル出資**
気候変動対策を支援。太陽光パネルなど日本の技術の活用を期待。



◀◀ JICAのニュース&トピックスをもっと読みたい方はアクセス!
<https://www.jica.go.jp/information/index.html>